

# 地震・津波発生時における道路管理者が行う 緊急避難誘導方法に関する研究

宮地 和弘

## 要 旨

南海地震は、土佐湾沖から紀伊半島沖の地域を震源地として、過去100年から150年の周期で繰り返し起こっており、次の南海地震は、2001年～2030年までの間に起こる確率が50%程度と高い確率でおこるとされている。その規模はマグニチュード8.4前後と非常に大きい地震と予想されており、高知県内の沿岸部においては、地震による津波の影響で浸水する地域が多く、津波到達時間も早い所で室戸市の4分程度、遅い所でも15分以内に到達する箇所も予想されており、津波の襲来による大きな被害が予想される。

高知県各地域においても自主防災組織などの活動も見られており、防災への意識は高まりつつあるが、国が管理している国道の道路利用者に対し、津波の影響がどの地域に、どの程度あるのか、また避難場所はどの方向に行けば有るのか、などと言った情報提供がされておらず、道路利用者側からみれば、「いざという時」には避難場所が何処にあるのか解らない状況となっている。

それらの問題を少しでも軽減するために、テレビ・ラジオなどの広報活動に加え、直轄国道における津波に関する統一標識の設置や道路情報板などを利用し、地震・津波が発生した場合において、道路利用者などに対して必要な情報提供方法や緊急避難誘導方法を検討した。